

# プラント状況確認結果(平成25年6月18日～6月25日)

平成25年 6月 25日  
福島県原子力安全対策課

- 平成25年6月18日～6月25日12時までの期間に、東京電力から福島第一原子力発電所1～4号機のプラント状況に関する報告内容について、県が確認した結果は次のとおりです。  
⇒ この期間において、不具合等の連絡(特記事項参照)を1件受けました。  
また、4月5日に発生した地下貯水槽からの汚染水漏えい事象の経過の詳細と現況については、[こちら](#)をご参照ください。

## (1) プラント状況(6月25日午前5時)

場所	目的	監視項目	1号機	2号機	3号機	4号機 <sup>※2</sup>
原子炉 <sup>※1</sup> (核燃料)	冷却	注水量 (m <sup>3</sup> /h)	4.4	5.5	5.3	—
		压力容器 下部温度(°C)	<a href="#">27.8</a>	<a href="#">40.3</a>	<a href="#">38.6</a>	—
	未臨界確認	キセノン135濃度 <sup>※3</sup> (Bq/cm <sup>3</sup> )(A系)	1.34×10 <sup>-3</sup>	検出限界未満	検出限界未満	—
压力容器	水素爆発防止	窒素充填	充填中	充填中	充填中	—
格納容器		水素濃度 (A系)(体積%)	0.00	0.09	0.12	—
使用済燃料 プール	冷却	水温(°C)	26.0	24.9	22.9	31

※1 直近データのみ記載。詳細は[東京電力のページ](#)を御覧下さい。

※2 4号機は原子炉に燃料が入っていないため空欄。

※3 保安規定に定める制限値は、1Bq/cm<sup>3</sup>以下である。

## (2) 発電所敷地境界におけるモニタリングポストの測定結果(6月25日午前10時)

最小 1.8(MP-6)～最大 6.0(MP-3) マイクロシーベルト/時 →[計測地点の地図](#)

## (3) 発電所専用港内の海水中セシウム137濃度の測定結果(6月24日採取分)

最小 6.7(物揚場前)～最大 160(3号機スクリーン(シルトフェンス内側)) Bq/l

※周辺監視区域外の水中の濃度限度(告示濃度限度)90Bq/lを超えています。これまでの変動の範囲内。

## (4) 発電所専用港外(沿岸)の海水中セシウム137濃度の測定結果(6月24日採取分)

5,6号機放水口北側に30m: 検出限界未満

1～4号機放水口から南側に1.3km: 1.2 ※検出限界値は約0.94 Bq/l

## (5) 発電所敷地内の大気中セシウム137濃度の測定結果(6月24日採取分)

西門: 検出限界未満 ※検出限界値は約1×10<sup>-7</sup> Bq/cm<sup>3</sup>

## (6) 1～6号機タービン建屋付近のサブドレン水中セシウム137濃度の測定結果(6月24日採取分)

最小 検出限界未満(4号機)～最大 0.32(1号機) Bq/cm<sup>3</sup> ※検出限界値は約0.02 Bq/cm<sup>3</sup>

### 【特記事項】

6月19日 1～4号機タービン建屋東側の観測孔から地下水の採取・分析を行った結果、1・2号機間

の観測孔からトリチウム及びストロンチウム90が高い値で検出された。

- ・トリチウム： $4.6\sim 5.0\times 10^5$  Bq/l(採取日：5月24日, 5月31日, 6月7日)
- ・ストロンチウム90： $1\times 10^3$  Bq/l(採取日：5月24日)

この結果を受けて港湾内海水の採取・分析を行った結果、全ベータについては、変化はなかったものの、トリチウムで高い値が検出された。

- ・トリチウム(1~4号機取水口北側海水)： $1.1\times 10^3$  Bq/l(採取日：6月21日)
- ・トリチウム(1・2号機取水口間海水)： $9.1\times 10^2$  Bq/l(採取日：6月21日)

今後、再採取・再測定を行う。

#### 【参考事項】

6月21日 2時58分頃、淡水化装置3(R0-3)の漏えい検知器が作動し、現場確認を行ったところ、漏えいを発見し停止した。漏えい量は約250リットルで外部への流出はない。原因については、6月20日のフィルタ清掃終了後に流量計下部にあるキャップの締め付け不良によるもので、流量計を交換して運転を再開した。

(問い合わせ 024-521-1917)